

## 第 II 編

物流 E D I 業務モデル及び  
モデル情報フロー

## II 物流EDI業務モデル及びモデル情報フロー

### 1. 当事者と場所の定義

物流業務に関係する取引相手などの「当事者（プレイヤー）」と貨物の移動場所・保管場所等の「場所」を、分けて定義しています。すなわち、「場所」は貨物の物理的な移動等の場所を示し、当事者とは明確に区分しています。

このように、当事者と場所を分けることにより、様々な当事者が関係した物流取引においても、簡潔に表現することが可能となります。

#### (1) 物流関係の当事者の定義

物流業務に直接関係する当事者を定義します。

| 当事者名                 | 当事者の定義   |
|----------------------|--|
| 荷送人                  | 運送事業者に対し、貨物の運送依頼を行う者。荷送人は、運送事業者と事前に運送基本契約を取り交わしているものとする。             |
| 運送依頼者                | 荷送人からの直接又は間接の運送依頼を受けて、運送事業者に対し、貨物の運送依頼を行う者。                          |
| 荷受人                  | 運送事業者等から貨物を受け取る者。  |
| 運送事業者                | 運送を業とし、荷送人又は運送依頼者から貨物の運送依頼を受取る者。自らは車両を持たず、運送業務を元請けする者、運送の取扱いを行う者を含む。 |
| 寄託者                  | 倉庫事業者に対し、物品保管、入出庫等の倉庫業務の依頼を行う者。寄託者は、倉庫事業者と事前に寄託基本契約を取り交わしているものとする。   |
| 倉庫事業者                | 物品の保管、入出庫等の倉庫業務を業とし、寄託者から倉庫業務の依頼を受ける者。自らは倉庫を持たず、倉庫業務を元請けする者も含む。      |
| 運賃請求先<br>(運賃支払者)     | 運送事業者が運賃を請求する相手。または、運送事業者に対して運賃を支払う者。                                |
| 倉庫料金請求先<br>(倉庫料金支払者) | 倉庫事業者が倉庫料金を請求する相手。または、倉庫事業者に対して倉庫料金を支払う者。                            |

#### (2) 物流関係の場所の定義

貨物の移動場所、保管場所等を定義します。

| 場所名  | 場所の定義            |
|------|------------------|
| 出荷場所 | 貨物を出荷する場所。       |
| 荷届先  | 貨物を届ける場所。        |
| 保管場所 | 倉庫事業者が物品を保管する場所。 |

(3) 商流関係の当事者の定義

商品の受発注等の商流に係る当事者を定義します。

| 当事者名 | 当事者の定義   |
|------|--|
| 受注者  | 商品の注文を受けた者。  |
| 発注者  | 商品の注文を出す者。   |
| 帳合先  | 取引口座を開設して継続的な取引を行う相手。<br>必ずしも商品の注文を出した者とは限らず、代金の決済だけの相手の場合もある。 |
| 納入先  | 受注者が商品を納める相手。  |
| 一次店  | 当該者からみて最も近い発注者。  |
| 二次店  | 一次店に対して発注する者。  |

(4) その他の当事者の定義

上記の当事者以外の関係者を記載するために下記の当事者を定義します。

| 当事者名  | 当事者の定義            |
|-------|-------------------|
| 関係者 1 | 定義された当事者以外の者その 1。 |
| 関係者 2 | 定義された当事者以外の者その 2。 |

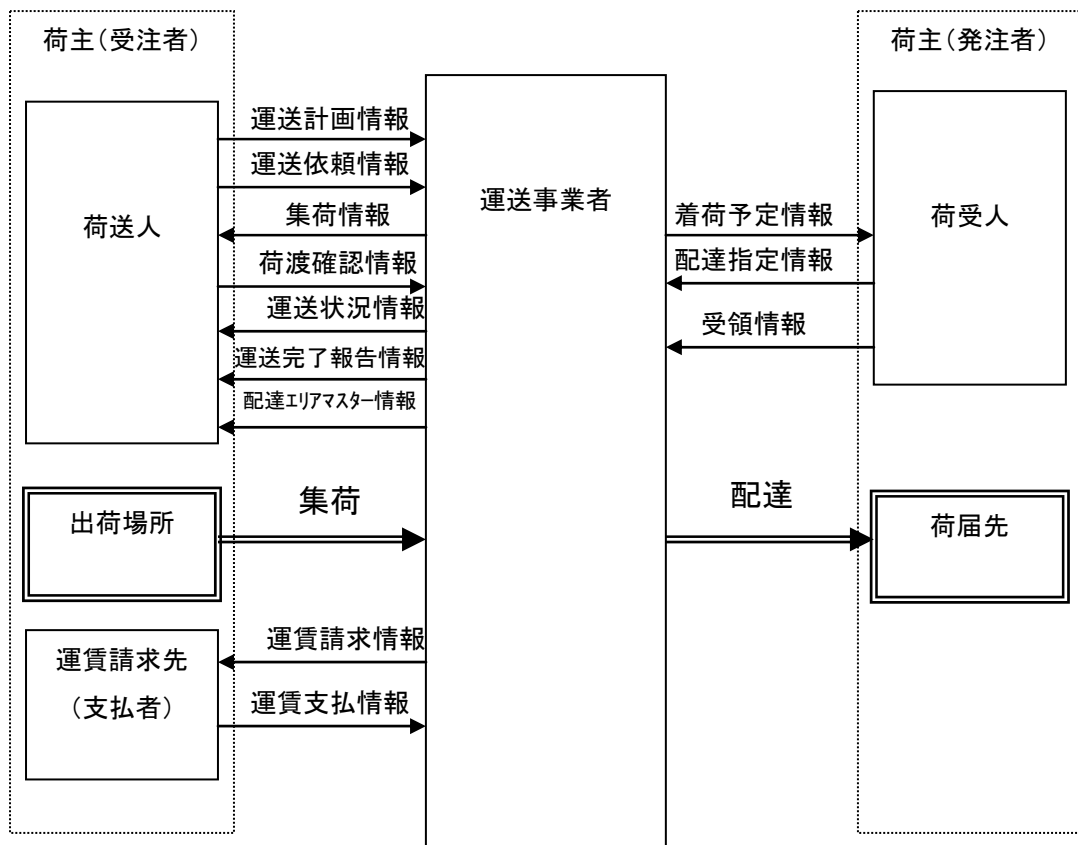
## 2. 物流EDI業務モデル

### (1) 運送業務に関するEDI業務モデル

運送業務に関するEDI業務モデルを下図に示します。

「荷送人」、「荷受人」、「運送事業者」、および「運賃請求先」は、運送業務に関するEDI取引の当事者（プレイヤー）を表しており、「出荷場所」「荷届先」などの貨物の移動場所と区別して表しています。

下図のモデルは、代表的なモデルを示しており、荷送人と出荷場所の企業が異なる場合、荷送人と荷届先の企業が異なる場合、荷受人と運賃請求先が異なる場合などがあり、メッセージ設計上は、いずれの場合にも対応できるようにしています。



図Ⅱ－1 運送業務に関するEDI業務モデル

(2) 倉庫業務に関するEDI業務モデル

出荷（出庫）業務と入庫業務に分けて、倉庫業務に関するEDI業務モデルを以下に示します。

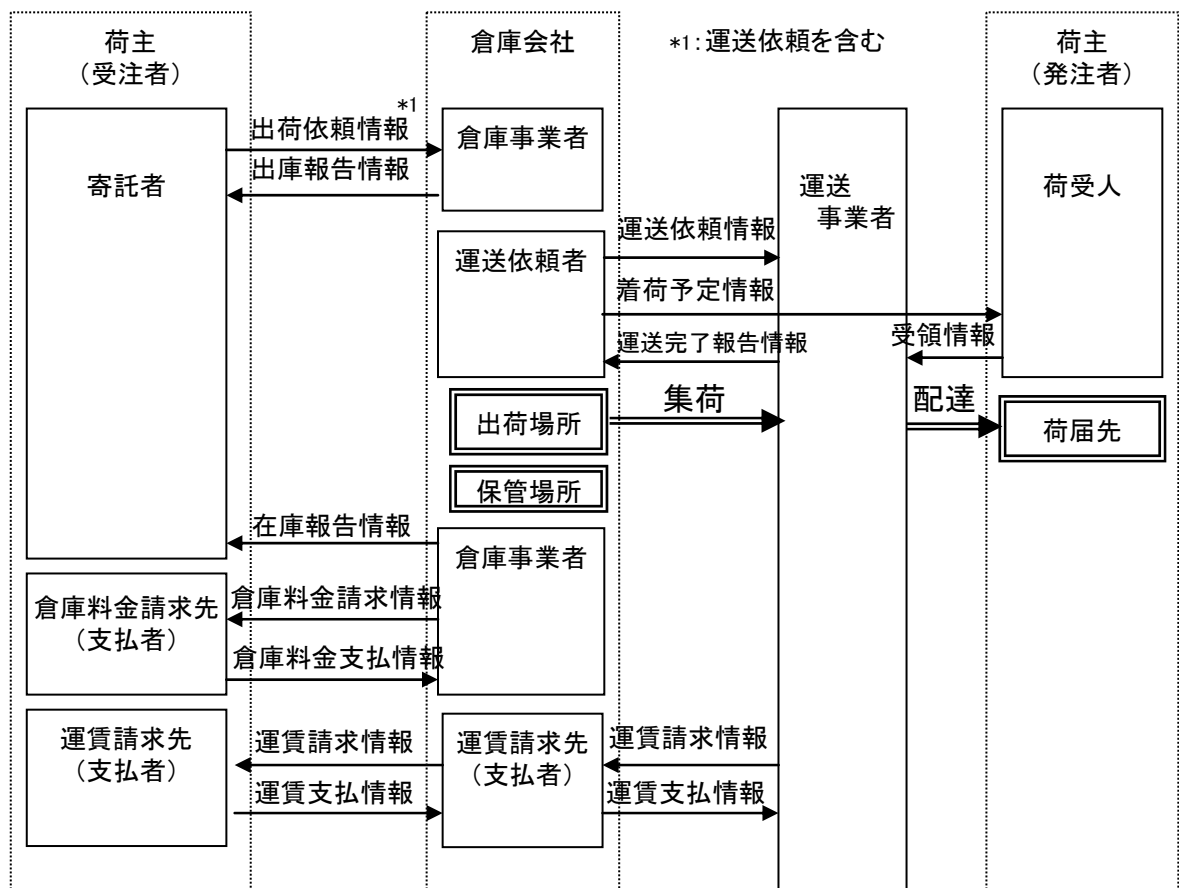
(a) 出荷（出庫）業務に関するEDI業務モデル

出荷（出庫）業務に関するEDI業務モデルを下図に示します。

JTRNでは出荷依頼情報を、出庫依頼と運送依頼を含むメッセージとして設計しており、寄託者が倉庫事業者に対して倉庫から出庫し荷届先に配達するまでの業務を一括して依頼することができます。発注者が倉庫まで引き取りに来る場合には、運送依頼を含まない出荷依頼情報を使用します。

ここで、「出庫」は倉庫から商品を出すこと、「出荷」は倉庫から出して荷届先に届けることを包含するものとして使うこととしました。

運送業務EDI標準モデルと同様に、寄託者と倉庫料金請求先が異なる場合にも対応できるようにメッセージ設計がなされています。

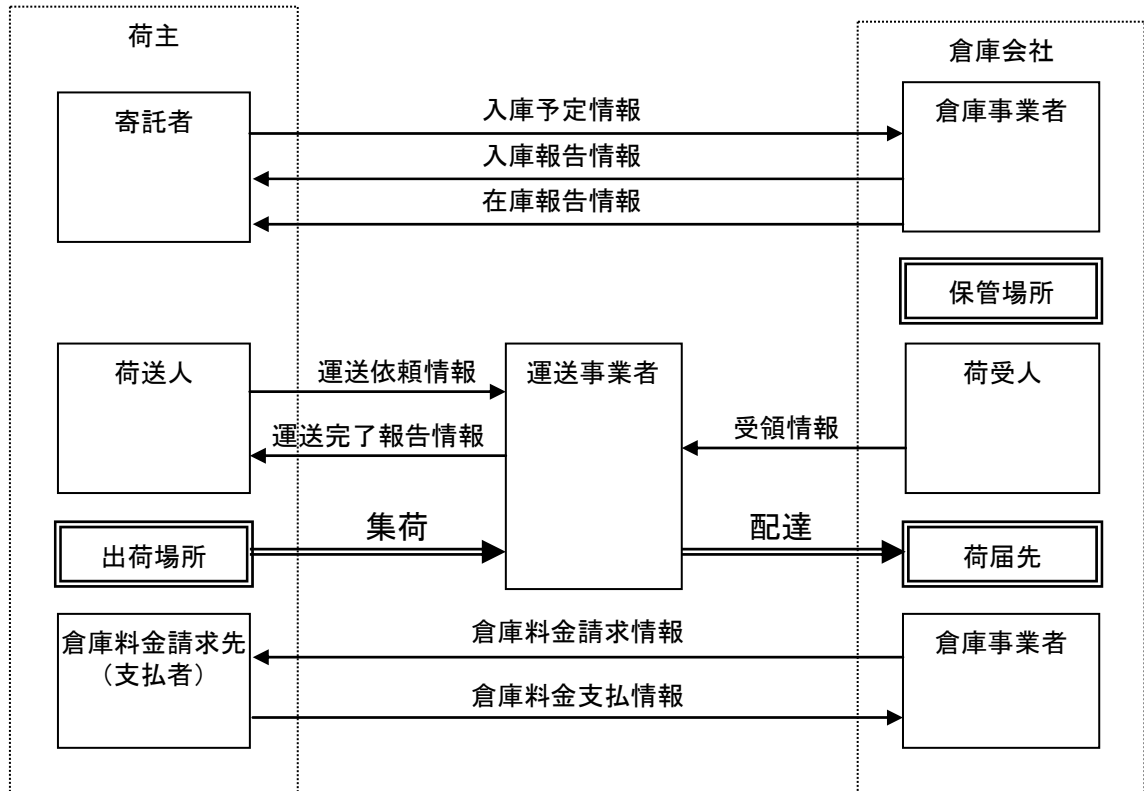


図Ⅱ-2 出荷（出庫）業務に関するEDI業務モデル

(b) 入庫業務に関するEDI業務モデル

入庫業務に関するEDI業務モデルを下図に示します。

ここでは、寄託者が倉庫事業者の倉庫に持込み入庫（すなわち寄託者が車を手配して倉庫に持ち込む）を行う場合のモデルを示しています。



図Ⅱ－３ 入庫業務に関するEDI業務モデル

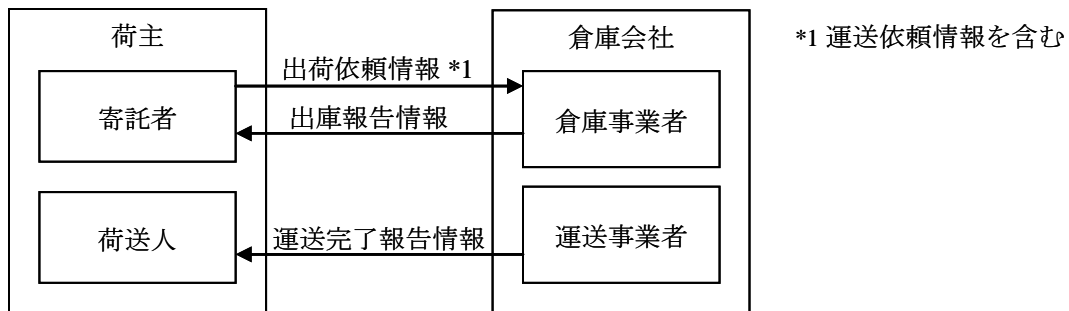
(c)トラック運送業務モデルとの関連

寄託者が、運送依頼を含む出荷依頼情報を送信する場合、寄託者は運送依頼に関して荷送人の役割も担っていることとなります。従って、倉庫事業者は寄託者に対し出庫報告情報と運送完了報告情報を返すことができます。

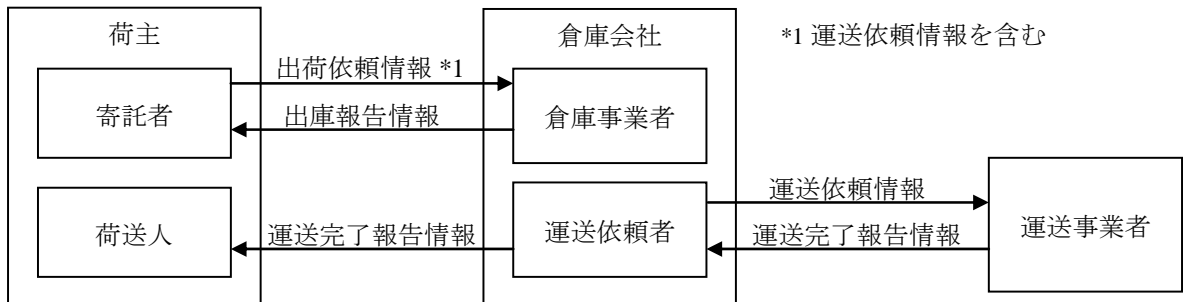
この場合、寄託者は運送完了報告を受けるキー項目として使用するために出荷依頼情報の中に運送依頼番号を設定します。

図Ⅱ－４に、幾つかの事例をあげます。

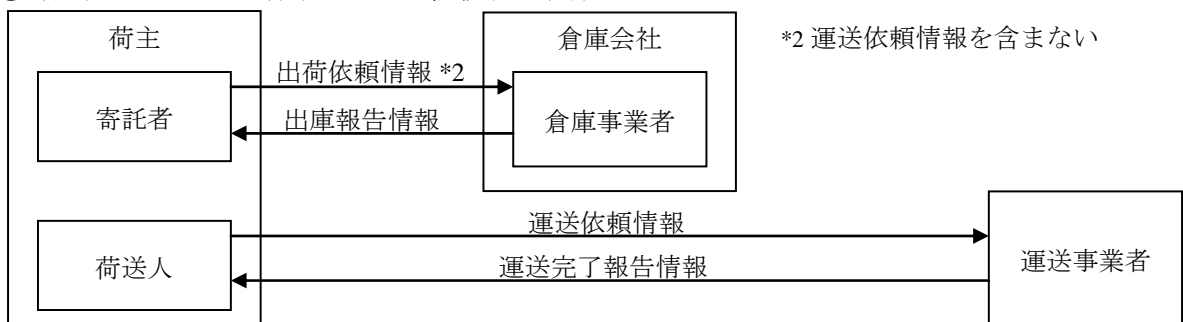
①倉庫事業者自身が配達する場合（倉庫事業者が運送事業者を兼ねる場合）



②倉庫事業者が別の運送事業者に配達を依頼する場合



③寄託者自身が運送事業者に配達を依頼する場合

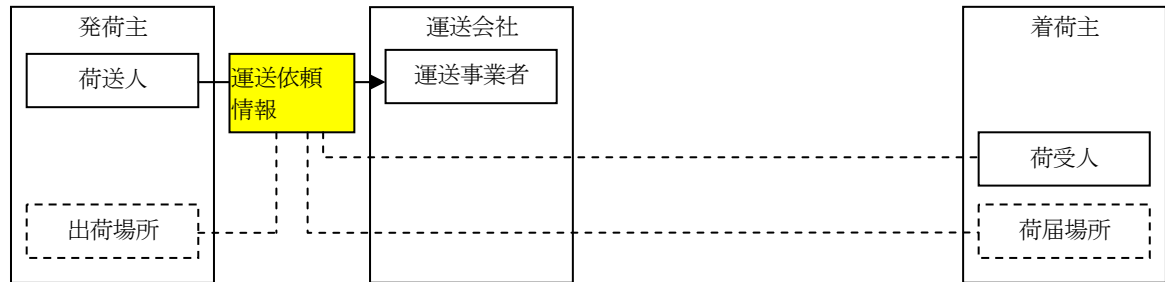


図Ⅱ－４ 倉庫業務モデルと運送業務モデルとの関連

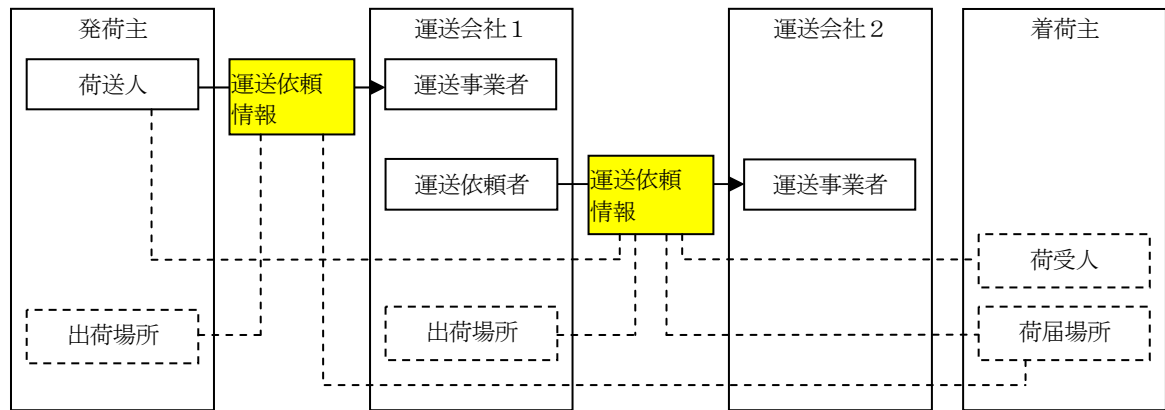
(3) 当事者の使用例

当事者は、事業者単位ではなく「物流に関する役割」で設定します。従って、事業者が物流業務を遂行する時の役割により、当事者名が変わります。以下に、当事者の使用例を示します。

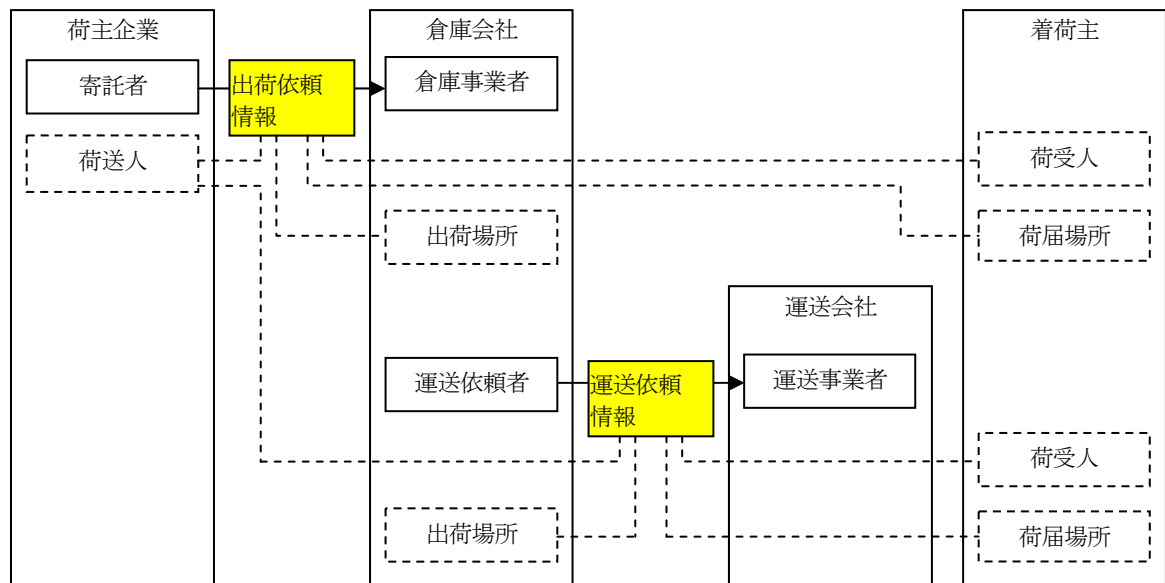
① 運送の基本ケース



② 運送会社を中継するケース



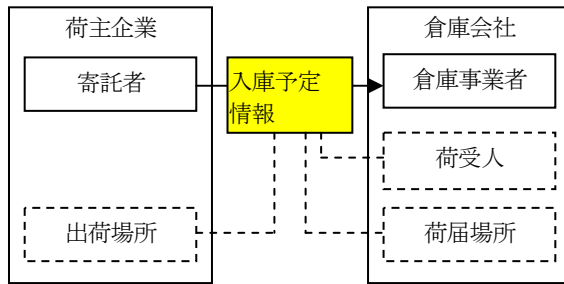
③ 倉庫会社のケース



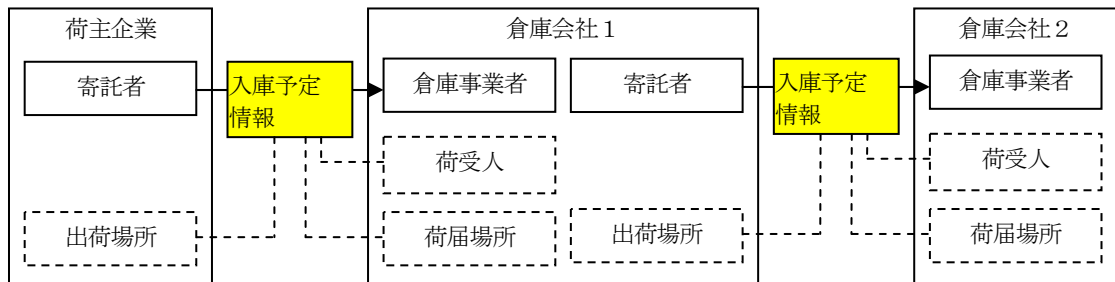
図Ⅱ-5 運送業務における当事者の使用例



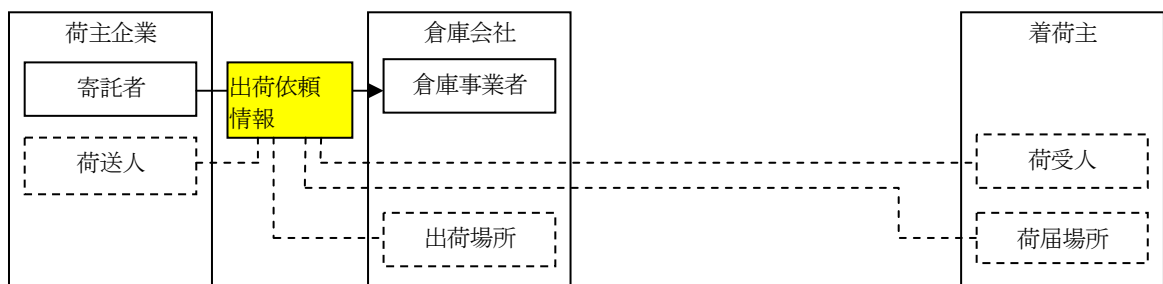
①入庫の基本ケース



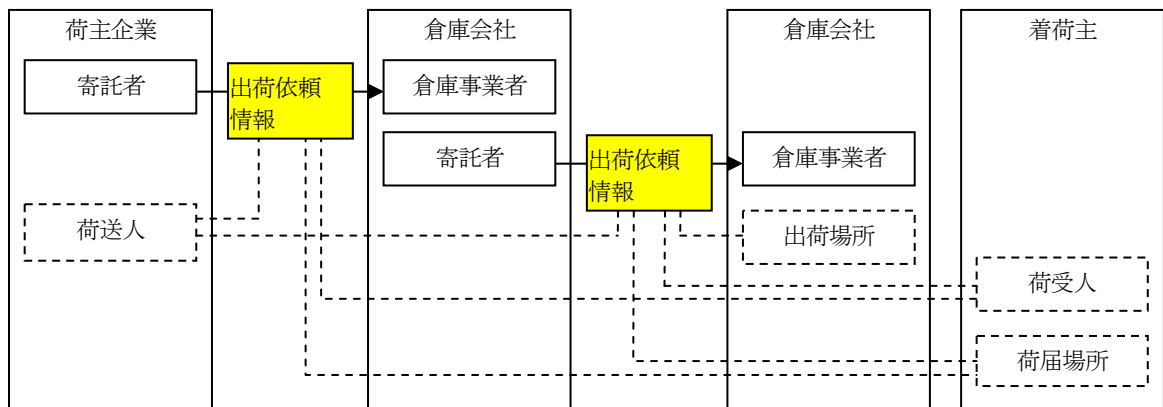
②入庫の再委託ケース



③出庫・出荷の基本ケース



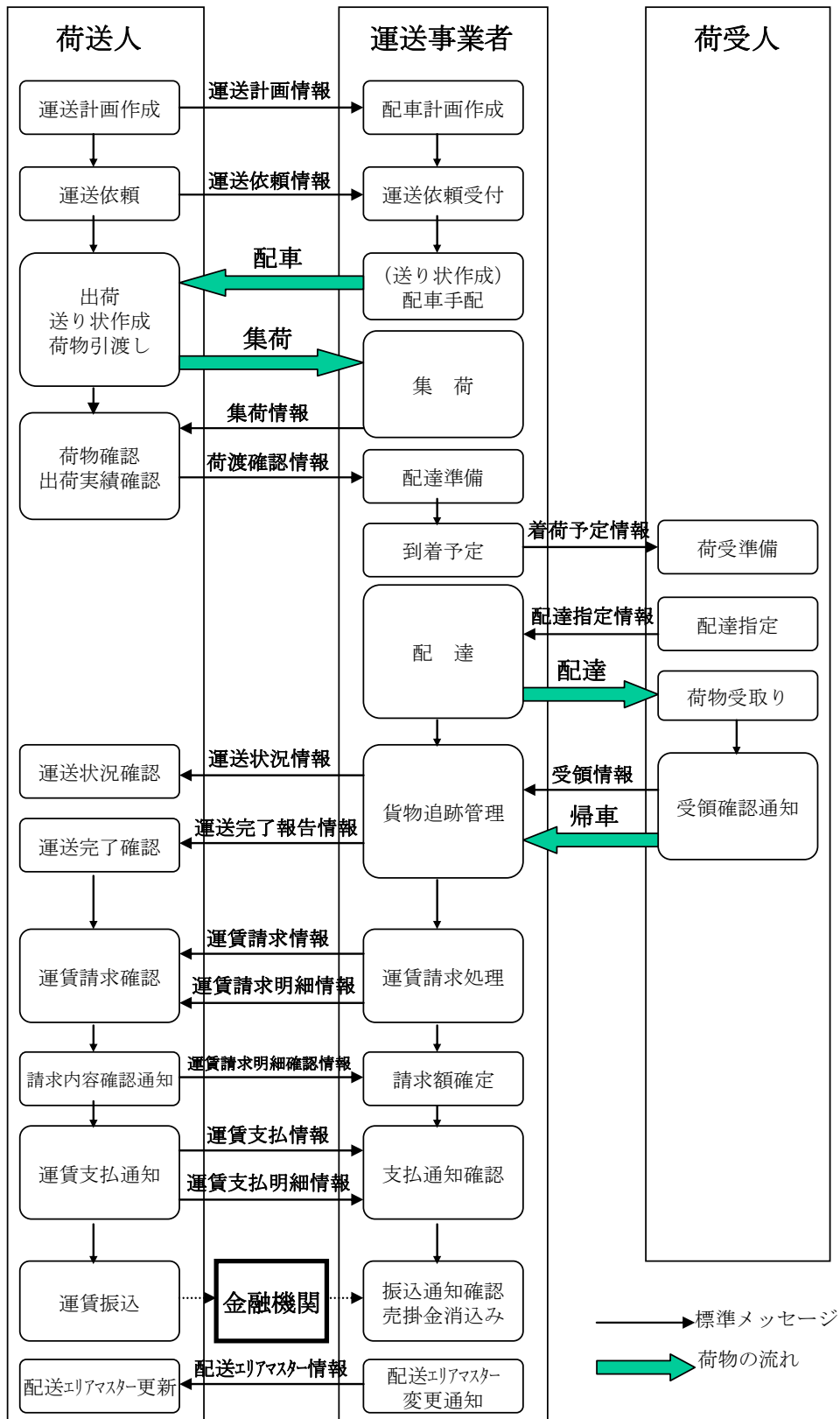
④出庫・出荷の再委託ケース



図Ⅱ－6 倉庫業務における当事者の使用例

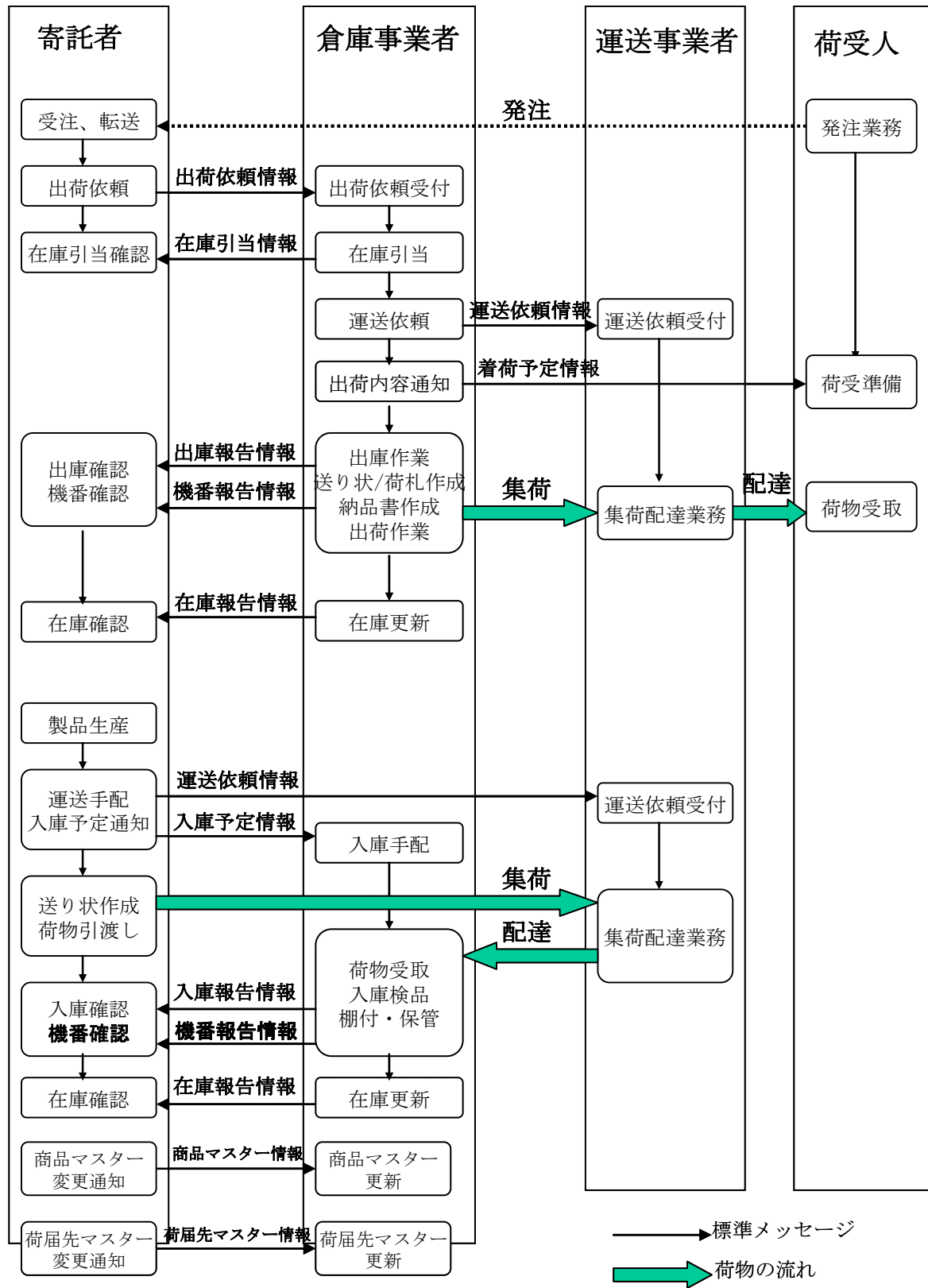
### 3. 物流EDIモデル情報フロー

#### (1) トラック運送業務モデル情報フロー

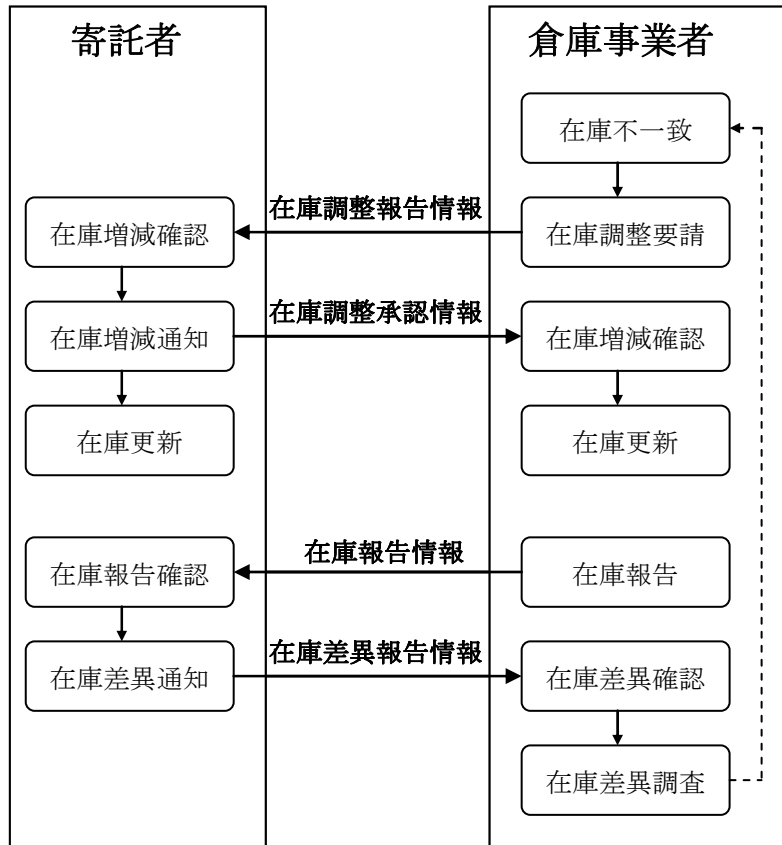


(2) 倉庫業務モデル情報フロー

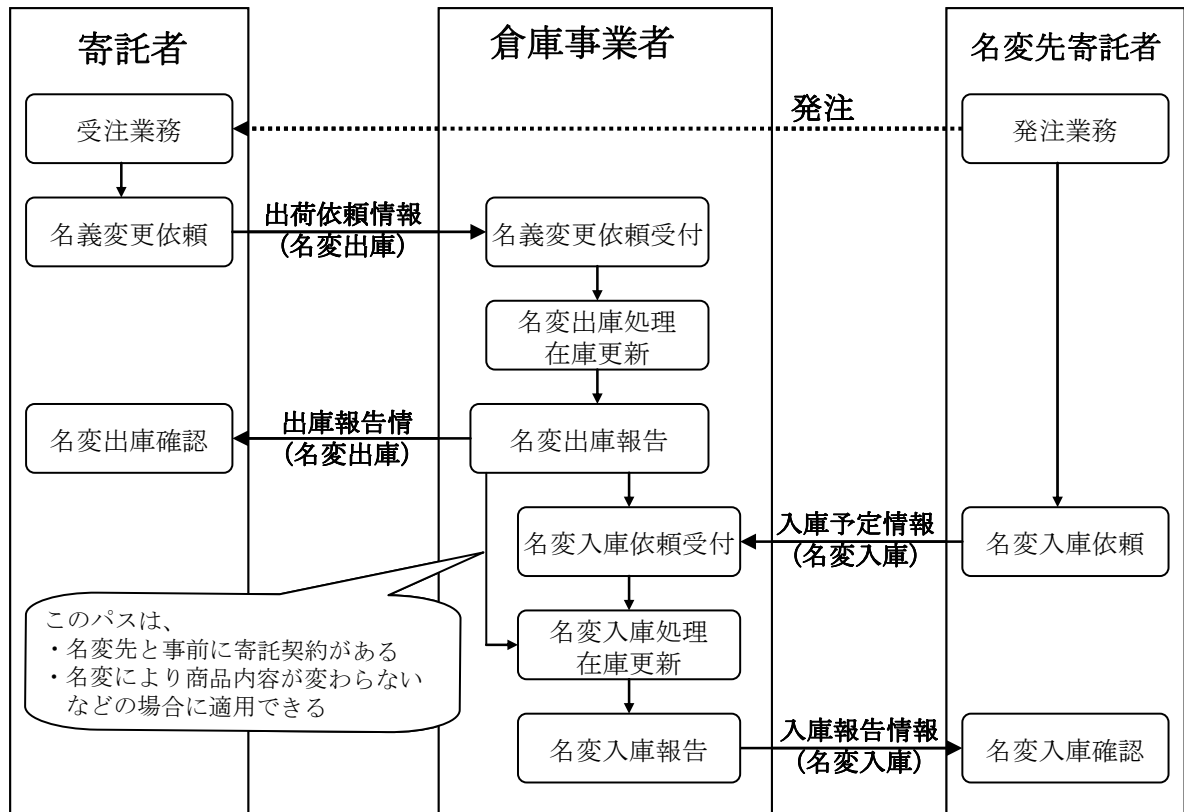
(a) 入出庫業務モデル情報フロー



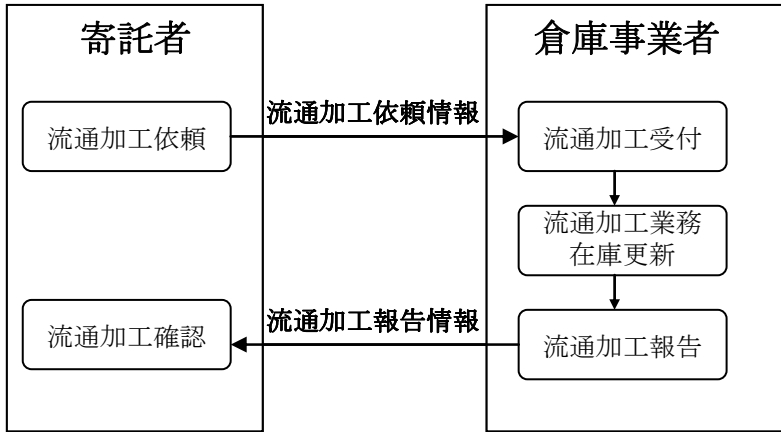
(b) 在庫調整業務モデル情報フロー



(c) 名義変更業務モデル情報フロー



(d) 流通加工業務モデル情報フロー



(e) 請求支払業務モデル情報フロー

